

第5回神奈川県地方創生推進会議議事録

名 称：第5回神奈川県地方創生推進会議

開 催 日 時：平成27年11月26日（木曜日） 午前10時00分から11時55分まで

開 催 場 所：県庁 新庁舎8階 議会大会議室

出 席 者： 牛山久仁彦、石井紀彦、浦川竜哉、大橋由紀子、黒田聡、ジギャン・クマル・タパ、関ふ佐子、露木徳行、富田幸宏、富山英輔、畑野耕逸、平位武、平松廣司、三崎幸恵、室田昌子、望月淳、山崎哲雄、ルース・マリー・ジャーマン、若生正之、秋山怜史、石本宇、桂由佳、菊地加奈子〔計23名〕（順不同）（ は座長）

次回開催予定日：平成28年1月27日（水曜日） 午前10時00分から12時00分まで

問い合わせ先：政策局政策部総合政策課政策調整グループ 星野春雄

電 話 (045)210-3056（直通）

ファクシミリ (045)210-8819

経過：

1 開会

平井政策部長：定刻になりましたので、ただいまから第5回の神奈川県地方創生推進会議を開催させていただきたいと存じます。

それでは早速ですが、牛山座長、議事進行をよろしくお願いいたします。

2 議事

議題1 神奈川県人口ビジョン（素案）について

議題2 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

牛山座長：それでは、議事に入りたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。この会議は6月4日にスタートいたしまして、これまで4回にわたって会議を開催し、皆様からご意見をいただけてきたところです。今回はここまでいただきました大変貴重なご意見を踏まえて、人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案ということで、事務局より原案をお示しいただくことになっております。本日は、まずこの人口ビジョン素案、まち・ひと・しごと創生総合戦略素案について、事務局から30分程度ご説明をいただこうかと思っております。そのほか一件、皆様にご報告申し上げましたように、8月に県で開催いたしました、「黒岩知事との対話の広場、神奈川から地方創生を考える - 人口減少社会への対応と地域の活性化 - 」というものが開かれましたが、その際にまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するにあたって、今後の出生率の推移といったところに大きな影響を持ちます、20代の男女の皆様のご意見を伺うべきだというようなご意見をいただきました。これを受けまして、白河委員及び石本委員に大変ご尽力をいただきまして、大学生を中心とした20代男女の皆様による意見交換会が開催されました。このことについて、後ほど石本委員からご報告をいただき、その後、皆様のご意見をいただきながら議論に入りたいと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

それではまず、事務局から人口ビジョンの素案及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の

素案について、ご説明をいただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。

(中谷総合政策課長から資料1及び資料2について説明)

牛山座長：どうもありがとうございました。続いて、先日開催されました、地方創生に関する若年者意見交換会について、石本委員からご報告をいただきたいと思います。よろしくお願いいいたします。

石本委員：石本でございます。先ほどご説明いただきましたとおり、参考資料をご覧いただければと思うのですけれども、10月29日に表題のような意見交換会をさせていただきました。このような貴重な機会をいただけたことを私自身が非常にうれしく思っております。改めて御礼を申し上げます。その内容につきまして、ご報告をさせていただきたいと思っております。

簡単に説明をさせていただきますと、下線を引いてあるところが、どちらかというところとポジティブといえますか、はっきりと希望というか、そういうものが見られるようなものとして、私は書かせていただきました。それ以外のものに関しては、希望ではないというか、悲観しているような面というところでまとめさせていただきました。これはあくまで一部の内容でして、当日は非常に深い長い意見、すごく充実した議論ができたので、ごく一部だということをご了承ください。そちらを是非ご覧いただきながら、A4の方をご覧いただきたいのですけれども、まず人数は11名、大学生が10名に社会人の29歳の女性が1名で、特筆すべきは大学生10名の中に男性が3名いらっしゃったということです。特徴は全員が未婚です。ただし社会人の方1名は、婚約中ということでした。先ほどのビジョン1で希望そのものが低いという内容に非常に関わってくる内容ですので、そこも関連してお話させていただければと思います。

意見の概要としましては、全体的にご自分の将来、結婚・出産・育児については非常に悩みや不安、あるいはこわいという方もいらっしゃいました。恐怖ということも言っていましたけれども、ネガティブな予期をしているということが分かりました。そのネガティブな予期というのは、全員未婚であるにもかかわらず、非常に具体的なものでした。例えば保育園をどうしよう、自分の将来の子どもを保育園に入れるにはどうすればいいのだろう、将来の通勤時間をどうしよう、将来の職場の人間関係をどうしよう、そういったところが、非常に特徴的な内容でした。私としては、こうやって希望を持ってないということ自体が未病ではないか、未病と関連しているのではないかという見解を持っております。また、20代の中でも、いわゆるサポートが異なるということも聞きました。当事者の方、つまり社会人世代の方には経済的支援などの具体的なサービスが必要であると。また、若年者の方、大学生の方などには、希望・ロールモデル、そういうところを提示していく必要があると考えております。また、若者の中でも、結婚・出産・育児について関心のある人、ないし関心のない人というのが二分化しているということが分かっています。また、これは非常に重要なことだと思うのですけれども、そういった希望を持ってないという状況の中でも、じゃあ、どうすればいいかという具体的な解決策のアイデアを幾つか持っているということが、その話合いの中で分かってきました。カッコに入れて下線を引いてあるところ

が彼らのアイデアなのですけれども、ごく一部でして、もっといろいろな、こういうふうにしたらいいのじゃないかという意見が出ております。

そのほか特出すべきは、ロールモデルというキーワードが何度も出てきました。お話を伺っていると、若い世代の人たち、ご自身、親、先輩、両親という身近な先輩のライフスタイルを参考にして、自分の未来を予期していると言って、身近な先輩がポジティブで生き生きしていれば、自分の未来もポジティブに映る。逆にネガティブであれば、ネガティブな未来として映ってしまうということです。したがって、まだ当事者ではないから関係ないというのではなく、非常に未来を予期して自分の今を選んでいるということが分かります。例えば、普通に大学に通っていたら、日頃会う両親、アルバイト先の疲れた先輩、おばさんしかいない。実際に働いて子どもを育てているロールモデルが身近な周りに存在しないのがすごく大きな問題だと、こういった意見は何度も聞かれています。また、ロールモデルというのは、普通の人であってほしいという、これは重要な意見だと思います。大企業に勤めている人とか、バリバリのキャリアウーマンのような、いわゆるスーパーマンないしスーパーウーマンという人ではなくて、本当に普通の人がどういうふうに生活をしているのか、それを知りたいという意見がありました。普通の家庭に向いて、実際に育児を経験することが重要。若者は世代間での価値観の違いを非常に痛感しています。例えばCさんの意見をご覧いただきたいのですけれども、Cさんは22歳の女性です。父の世代と私たちの価値観の違いを感じる。いろいろな価値観があってもいいと思うが、「バリバリ仕事をして稼いで家族を養う」が、父の人生にとっては大事なこと。家族を思い、そういうライフスタイルを大事にしてきた人に、いきなり「時間短縮」と伝えることは、その人生を否定してしまうのではないかと。お互い歩んできた人生や時代が違うからこそ、その価値観のずれを埋めるのは難しい、こういう価値観の差というものを痛感しているわけですね。しかし、その上でも世代間の交流というものを求めている。これは、ロールモデルというところをご一読いただければ分かるかと思うのですけれども、自分よりも年長の世代の人たちと交流を多く持ちたいという意見が非常に多く聞かれた内容であります。また、詳細な説明は省かせていただいているのですけれども、出たキーワードとしましては、ワーク・ライフ・バランス、地域社会で子育てをされる主婦及びその数を増やす、行政主導の民間サービスを導入してはどうか、中小企業の働き方を変えてはどうか、労働環境を見直してはどうか、また、先ほど言ったような関心の低い人たちを取り込むアイデア、こういうものをいろいろなご提案をいただきました。例えば、若い人たちにとってみれば、結婚や出産、育児について関心がある人と関心がない人たちの格差というのが、非常に大きい。なので、例えば就活とか、コミュニケーションというキーワードをフックにして、結婚・出産・育児に関心をつなげていく、これはGさんの発言が、非常に象徴的です。こういうふうにイベントとか、恐らく行政としても今後なんらかのイベントを発信していく必要があるかと思うのですけれども、そこにワーク・ライフ・バランスですとか、育児とかのキーワードにしても、そもそもそれに引っ掛からない人たちがいる。だから、こっちは戦略的に、例えば就活に役立つよとか、コミュニケーションに役立つよというようなフックのキーワードを用いて人を呼び込んでいったらどうかというようなアイデアも出てきました。

時間が長くなってしまいますので、裏面に進めさせていただきます。私の考えです。若者を

これからサポートしていくというお話があったかと思えます。サポートには二つの視点が重要であると考えております。一つは客観的な安全、つまり環境面へのサポート。労働環境、経済、医療、こういったものは、先ほど総合政策課長からお話をいただいたものです。しかし同時にもう一つ、主観的な安心という面、こちらへもアプローチをしていく必要があるのではないかと。例えば心理面でサポートする。具体的にはロールモデルの提示といったものは、非常に安全だけではなく、安心へのアプローチとして有効であると私は考えます。安全を提供するだけでは、人は動きません。具体的に労働環境とか、経済という制度を整えたからといって、人が動くわけではないです。安心という心理面、感情面にも配慮したアプローチが不可欠であると、私は考えております。

最後に、ロールモデルの意義とさせていただきます。まとめとさせていただきます。ロールモデルというキーワードが出てきました。悩み事を解決したり、対処法などの具体的な方法を知ることができると同時に、同じような悩み事を共有し、分かち合うことで、1人ではないと思え、心理的な負担を軽減できる。行政が主体となり多世代との交流を推進することで、自身のロールモデルを見つけてもらうことが重要である。これが、私の意見交換会で感じた結論です。1時間を越える濃密なこういう内容の議論だったので、生のリアルな意見を聞くことができました。私の用意した、この資料を是非読んでいただいて、同時に、彼らはまだ結婚していない人たちであるということ想定した上で、また、全員女性じゃなく、男性もいるのだということ踏まえた上で、ご一読いただければ、若者が今どういう心理状況で、どうすれば希望を高めることができるのかということをご理解いただけるのではないかと、ごく一部の抜粋ですが、書かせていただきました。お時間がありますので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。

牛山座長：石本委員、どうもありがとうございました。大変興味深いものであったかと思えます。今、事務局、それから、石本委員からご報告をいただきましたが、この後、ご意見はまたいただきますが、とりあえず疑問点とか、何か明らかにしておきたい点など、ご質問だけまずはいadakいたいと思えますが、いかがでしょうか。

ご質問については、よろしゅうございますか。もしご質問がなければ、意見交換に入っていきたいと思えます。ただいまのご報告、それから説明を踏まえまして、議論していきたいと思えます。またいつものように多くの方からご意見をいただきたく思えますので、大変恐縮ですが、ご質問は簡潔にお一人3分程度を目安にいただいて、議論を進めていきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひします。それでは、ご意見をいただきたく思えますが、いかがでしょうか。

平位委員：平位でございます。いろいろ詳しい資料をありがとうございます。前回のときにも議事録にも入っているのですが、未病の件で意見というか、質問というか、やはり今回も未病ということがかなり前面に出ております。前回のときも未病というのが一番の前面に立っているのかという議論もございましたけども、いろいろな例えば箱根サミットですとかを考えますと未病というのが一つキーになっています。それはある程度納得しました。その中で、未病といいいますと抽象的過ぎますので、例えば資料2の7ページとか、13ページに健康寿命という言葉があるのですね。こちらの健康寿命の方が、よりアピ

ールしやすいのじゃないかと。例えば、平均寿命とか、いろいろありますけども、やはり皆さんの関心のあることは、高齢になってもやはり元気で過ごす。そういった中で、私は健康寿命の年齢だとか、そういうことを聞きたいのですけども、健康寿命は一体今幾つぐらいで、特に神奈川県ではどれぐらいかというのがもし分かれば教えていただきたいのですけども、例えば健康寿命日本一を目指すとか、そんな具体的な話がありますと、よりその後の未病産業の創出とか、そういった方にもより具体性が増すということがございますので、例えば13ページの資料の中には指標というのですかね。この中に健康寿命の具体的な年齢を入れていただくとか、そういったことをもっと前面に出してもいいのじゃないかと、こんなふうに思いまして、意見を申し上げました。

牛山座長：ありがとうございます。ご意見とともにご質問をいただきましたが、今の健康寿命の状況といえますか、その数字について、事務局でいかがでしょうか。

総合政策課員：当県の健康寿命ですけれども、男性が70.9歳で全国12位です。女性が74.36歳、全国で13位です。

二見政策局長：我々も未病の関係のところについては、数値目標的なものをやはり掲げていきたいとは考えています。現在それが県の中で整理ができていない段階ですので、今どういう数値でその辺を改善していくのを示そうかと検討していますので、これが成案になるときは、その辺の数値を入れて、今いただいたご意見にそのような形で対処していきたいと考えています。

平位委員：ありがとうございます。今の寿命で、例えば日本一ですと、どこでどれぐらいになるのか、平均でどれぐらいか、その辺をもしあれば教えていただきたいのですけども。

総合政策課員：現在、男性でいきますと、愛知県さんが1位で71.74歳、神奈川県との差はたった0.84歳です。女性ですと、静岡県さんが1位で、75.32歳、本県との差は0.96歳です。

平位委員：ありがとうございました。日本全国の平均というのは、分かりますかね。

総合政策課員：健康寿命の平均は、今手元にありません。

平位委員：分かれば結構ですので、お願いします。ありがとうございました。

牛山座長：ありがとうございました。具体的な数値を今ご紹介いただきまして、それと神奈川県の比較ですね。今ご意見としては、未病というのがなかなか分かりづらいので、今のお話は健康寿命とか、そういったところを説明の中に入れながら分かりやすくというようなことでした。

白石委員：(株) ジャーマン・インターナショナルの白石ルーシーです。本日の資料、ありがとうございます。とても参考になりました。意見になるのですけれども、人口減少の歯止めをしたとしても、多分高齢者の比率はそこまで変わらないような気がしているので、その人口減少の歯止めをしていても、高齢者がたくさんいらっしゃる神奈川県に将来にわたってもなるような気がして、そこで、これは一つの提案なんですけれども、高齢者がたくさんいらっしゃることをあえてポジティブに採って、若者が医療関係の資格を取ったりとかすると、神奈川県から何らかのサポートがあるみたいな、いわゆるメディカルを中心とする県になるようなことができたらいいなと思ひまして、例えば看護師の資格を取ってれば、家のローンの補助があるとか、例えば保育園のサポートがあるとか、そういうような県の対策で、いわゆる高齢者のサポートをする方々をサポートするような取組みがあれば、もっと若い人たちが就職、やはり医療系のものがこれからもたくさん増えると思うのですけれども、医療系の仕事をされている方が進んで神奈川県に住みたいみたいな状況になれば、高齢者のケアをしながら、また、生活のサポートとか、いろいろなバックアップがいただけるというような環境ができれば、Win-Winかなと思ひました。

もう一つ、私もたまたま藤沢市にある江の島アイランドスパで新しいクリニックを開業して、未病の対策を一生懸命施設として取り組もうとしているのですけれども、そこですごく思っているのですが、県からのヘルスケア・ニューフロンティアというサポートをもらうための何かの資格みたいなものを導入したらいいかなと。この施設は未病対策をしっかり取り組んでいます、みたいな資格みたいなものがあれば、それがあつたら何かの税金的な補助があつたりとか、いろいろな各施設とかがもっと未病対策に取り組むための具体的なサポートができてくると、先ほど具体的にというお話があつたのはそのとおりだと思いますけれども、具体的にいろいろな施設が動き出すのではないかと思います。意見ですけれども、申し上げました。

牛山座長：ありがとうございます。ただいま2点、ご意見をいただいて、高齢者をサポートする若者、そういう皆さんを支援するような施策があつた方がいいのじゃないかというご意見ですね。それから、ヘルスケア・ニューフロンティアをもっと推進するために、資格、あるいは補助、そういった形で今後推進させるというご意見だったと思います。

平松委員：ビジョン2の「マグネット力」の向上に関しましては、いわゆる社会増に向けた対策で、そのためには東京都への転出超過を抑制する必要があるということですね。「ヒト」・「モノ」・「カネ」を引き付けて東京都への転出を抑制すれば、年間1～2万人の社会増を将来的に維持できる、と示されています。さらに、地域らしさに徹底的にこだわった地域の「マグネット力」の向上を図っていく、とも示されています。

東京都に転出していく人が多いため神奈川県は社会減になっていく、とされていますが、社会増に向けた対策の一つとして2020年の東京オリンピック・パラリンピックへの取組みがあります。東京オリンピックに関連する行事が神奈川で行われたり、神奈川にも施設が作られたりすることで、外国人観光客の増加が見込まれるということです。しかし、社会減を止めていくためには、東京オリンピックまでの5、6年間だけでなく、終わった後ど

ういう政策を執っていくのか、このことのほうが、社会増に変えていくためにつながっていくのではないのでしょうか。

続いて「ヒト」・「モノ」・「カネ」を引き付けて東京への転出を抑制する、とありますが、その具体策がここには書かれていません。社会減に歯止めをかけるため東京都への転出超過を抑制することに注力されており、その中身についてはあまり述べられていないかと思えます。もし、すでに検討されているものがあればお伺いしたいです。特区の問題や雇用促進等も含めて、いろいろな問題もあろうかと思えますが、社会増に向かっていくための施策をもう少し明確にしていいただければと思います。

牛山座長：ここの「マグネット力」は、本当にたくさんの中身が入っていていいのじゃないかなと思うのですね。一つ、人口ビジョンの方で出ていたような、東京にやはりとにかく出ていってしまうというようなことをどうするのかということと、もう一つ、オリンピックとか、観光とかですね。そういった問題。平松委員がおっしゃられたように、それを個別にどうそれぞれ進めていくのかはなかなか難しい問題かと思えますが、事務局の方でお考え等を伺いたいのですが、この東京への転出超過というのは、神奈川より東京の方が住みやすいということが一つ考えられますね。もう一つは、やはり職場が東京にあるので、近い方に引っ越してしまう。両方あるかと思うのですが、その辺は何か分析とか、お考えとかありますか。

二見政策局長：平松委員にお答えすると、全体的にもし分かりにくかったら、それは少し書き方を改善しなければいけないと思えますけれども、基本の考え方は、やはり県内に産業を興そうということが東京への流出を止める第一だということで、基本目標1に県内にしごとをつくり、と記載がされているのは、そういう意味です。主力に置きたいのが、未病産業、ロボット産業、エネルギー産業、観光産業について、これは人を引き付ける成長産業であろうということで、これをうんと振興していくのと、それから、基本目標2で掲げましたように、神奈川県が超高齢社会を乗り越えていく仕組みをつくらうという、これは世界的にも一番最先端を進んでいる、そこを進まざるを得ないような地域になっていきますので、こうした社会システムづくりに取り組んでいるという姿を発信することが、もう魅力になるだろうという考え方が基本にあります。そして、国内外から人の流れをこちらに持ってくるという考え方が基本ですので、東京への転出超過を抑制するという、ここに結び付く流れが見にくいということであれば、その辺をもう少し、私が今申し上げたような形を強調していきたいと思えます。そして、この人口のグラフ、将来推計を出しましたけど、このところで実際市町村がどういう地方創生をやって、どのぐらいの人口を考えているのかというのが出そろってきました。その積み上げとも今の社会増は整合させていて、一番大きな数字を持っているのは当然横浜・川崎なので、そこにどういった社会増を展開するのかというのは整合をとっています。横浜市さんと川崎市さんの基本の考え方は、具体的な再開発の場所があるのです。その数字を積み上げた結果、こういう社会増が可能だという見解を伺っています。その社会増の基本の考え方が、東京への転出を止めようという考え方を横浜市さん、川崎市さんが持っていらっしゃると思います。そういったものと整合をとって、この施策を進めていくという考え方を根底に持っているものですから、もう少

しその辺を理解していただけるように、次回書き込んでいきたいと思います。

牛山座長：ご指摘いただいた点を踏まえて、少し分かりやすくしていただけるということですが、要はそういった東京の方に今通っている皆さんの住みやすさみたいなものが当然魅力を高めるといように産業の創出、そういったところを発信しながら人を引き付ける、こういった二つをやっていくということです。今、市町村のものが大体出そろってきているということですが、人口ビジョンの方で示されている数値というのは、市町村の足し上げてきたものとほぼ整合性がとれてきている数字だということによろしいですかね。

二見政策局長：はい。実は神奈川県が独自に推計をしていて、市町村ごとはいろいろ増減がありますけど、県内移動というところがなかなか読めなかったものですから、神奈川県全体で県が独自にやったものというのは、2060年808万人という数字だったのですが、この市町村のものを積み上げた結果、市町村がかなり社会増を強く見ているという数字が分かりましたので、そこに20万人弱その部分を上乘せさせていただいて、今830万人としているのは、そういった市町村との整合を図った結果です。

浦川委員：本当に参考になる資料をありがとうございました。東京への転出等を防ぐという意味では、当然この県内産業の創出・育成、これは資料2の16、17ページですね。それから産業の集積、当然だと思のですが、プラスの議論としまして、県内において交通インフラの整備、それから都市開発、この辺をプラスしていくといいのじゃないかなと。例えば成功した例としては、武蔵小杉の景観が変わったように、それから、横須賀線の新駅をつくって行って、東京へ通ってくださいと、住むなら神奈川へと。一つの事例として参考になるのが、千葉県の流山市だと思のですが、子育てするなら流山へという形で、もう東京の衛星都市として割り切って逆に施策を立てられているんですね。これはTX、つくばエクスプレスの新駅ができたというところで大きく踏み込まれて、人口増が何かで非常に成功されている一つの成功例だと思います。そういった意味では、県内の雇用を増やす、観光や未病の対策をする、プラス、例えば今、新幹線の小田原と新横浜駅の間にも新駅をつくる構想ですとか、あるいは既存路線を使った湘南ライナーみたいなところとか、こういった特急とか、交通インフラの整備、それから、周辺沿線の都市開発、これをプラスして行って、重要な取組みの 県内産業の成長促進と書いてありますが、県内産業をされている事業所は中小企業が約99%、いわゆる大企業を誘致するとか、新産業を誘致するというのも当然やっていかなきゃいけないんですけど、やはり限界がある。それにはやはり県内の交通インフラの整備、沿線の都市開発、そういったところで、子育てをするならやはりとか、週末を過ごすなら神奈川、働くなら東京、こういった割り切った考え方をプラスしていくといいのじゃないかなと思しましたので、意見させていただきました。

牛山座長：交通問題は確かにたくさん議論が出ていますし、皆様からご意見をいただいているところでありますし、また区画整理の問題と併せて重要な課題だと思います。

富山委員：まず一つご質問をしたいのですが、「マグネット力」の向上、それから、その先の神奈川ライフの展開という中に、都心の良さと田舎の良さ、都心の近くにあるながら田舎の雰囲気も味わえるというような神奈川県の特性・魅力のキーワードがあるのですけれども、田舎というのは具体的にはどういうふうに捉えていらっしゃるのか、まずはお聞きできますでしょうか。

二見政策局長：田舎というのは、概念的には、今進めようとしているのは、非常に自然が豊かであるということで、これはかなり奇跡的なところなのですね。厚木市辺りを見ましても、大都会でありながら、そこに熊まで出没するといった、日本国を見ても自然と都会の接点になっているのが厚木から下りてきて、平塚ですとか、藤沢ですね。あとは三浦半島の付け根の辺り、この辺をぐるぐるとやった、ちょうど1時間圏内ぐらいの所がそういった現象を起こしていますので、それは一番売りになるところだろうということです。知事も子育てをするときにやはり通勤のしやすさ、仕事がありながら自然の中で子育てができるという、その辺は非常にポイントになるのだろうということで、できればフレーズ的には「ちょこっと田舎」みたいなもので、子育てとか、そういう発信の仕方ができないかということは探っております。

富山委員：そうしたときに、産業の育成、誘致ですとか、交通網の整備とか、利便性を向上させるみたいな部分というのは、田舎の良さみたいなものを守った形で行われることを希望したいなと思います。ともすると、結局2番目の東京みたいなものが出来上がったということではなく、今お聞きしたような、神奈川県の良さというものを維持した上で、どういう形でプラスアルファ、新しいビジョンみたいなものをどう描いていけるかということがとても重要じゃないかなということを考えます。

牛山座長：今後バランスとか、あるいは調和、そういったところを、しっかり盛り込むようなイメージ。

若生委員：今回のビジョンの中で高齢化社会という観点からすると未病を治すということは非常に重要なことだと思うわけですが、この未病を治すという概念が県民にもう少し分かりやすい浸透を図る必要があるんじゃないかと。例えば血管病変等のアンチエイジングを考えているのか、重篤疾病の前駆症状を念頭に置いているのか、それとも体調不良の解消を考えているのか、健康保持・向上を考えているのかです。これら全部を網羅というなら網羅した形で、また分類分けが出来るなら分類分けして明示すればかなり分かりやすくなると思います。また、これらの明示がこれからの産業の発展に結び付くこともイメージしやすいと思いますので、もう少し県民に分かりやすいような例示、あるいは分類をしていただけると非常に説得力が出て来るのではないかなと思います。

牛山座長：未病は大変重要なキーワードだと言われながら、なかなか分かりにくいということで、この点は是非分かりやすさということをお示しいただきたいと思います。

秋山委員：2点、意見を述べさせていただきます。まず、就業促進のところですけども、やはり神奈川県の中企業はすごく多いので、ただ、就職活動とか、そういったことになると、そういった中企業とかは人手が足りていないのに人材が集まらないと。これは全国的な話だと思うのですが、そういったミスマッチが非常にあると思うのですね。もちろん留学生の方々は、就職をするときでも、本当にそういった人材を求めている所、あるいは中企業がどれだけあるのかとか、そういったことの情報が入りにくい。そういった就職のミスマッチを神奈川県全体でなくしていくという考え方も、非常に重要なのではないかなと思います。そういった視点を少し入れていただくと、大変良くなっていくのではないかなと思います。

もう1点、まちづくり系のことに関してなんですけれども、こういった施策となると、かなり大きな、例えば市町村単位であるとか、まち単位とかになってしまうのですが、実は例えば3世代近居とか、子育ての問題とか、コミュニティーの問題は本当に小学校区単位、あるいは町内会、自治会、そういったレベルで取り組んでいかなければならないことが多いですし、ここに書かれているのも実はそういったところからの視点で解決していかなければならない部分がすごく多いのですよね。もっと地域、もちろん町内会とか、自治会とか、そういった単位で、どういったまちを目指すのかというような視点を是非文言としても入れていただくと、どうしても大上段に構えて、市町村全体、神奈川県全体でということと、もう一つ少し身近な、さっきのロールモデルの話もあったのですが、一般の人たちが実感できる単位の言葉を入れてあげると、非常に行動も変わってくるのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

菊地委員：私は、仕事と子育ての両立というところでお話したいと思います。石本委員、資料をありがとうございました。私はとても衝撃を受けました。正直言って、現実はこののではないよということをすごく言いたかったのと、私自身が学生のときを振り返ってみれば、同じ思いをしていたなということを感じたのですね。やはりたった10年、20年の世代差なのですけれども、ここまで認識の違いがあるということに驚きを感じました。私も大学で社会人としての教育、仕事と子育てという講義を持たせていただいたりもしているのですが、まだまだ伝え切れていない部分があるのではないかなと思います。出生率というところを上げていかなければいけないという点でも、もう少し若者に対してのアプローチというものが必要ではないかなと思っております。神奈川はもっと保育園も入りやすいですし、東京ではニュースで待機児童、待機児童と言われてはいますが、神奈川はもっと子育てがしやすいですよ、まだまだ問題はありますけれども、いい所ですよということをもっともっとアピールしてほしいなということと、あと、もっと通勤がしやすくなるということもありましたけれども、通勤をなくしてしまうということも私は必要ではないかなと思うのですね。サテライトオフィスということも提案させていただいたので、神奈川に住んで子育てをして、東京の企業の仕事を手で持ってきてしまおう、神奈川のサテライトオフィスで東京の仕事ができるという環境を整える。そこで子育てもできてしまっ、子どもと衣食住とか全てを近接しているというような環境をつくって、そういった魅力的な特区をつくるということも、今後そこで若者がもう少し仕事で

きたり、見学ができるということをつないでいくことができるのではないかなと思います。

牛山座長：若者を支援といいますか、具体的にどうしていくか。今回、このまち・ひと・しごと創生総合戦略では、国からKPIという具体的な指標をしっかりと立てなくてはいけないということで、そういった意味でかなり難しい面もあるかと思うのですが、是非それをうまく立てられるようにしていければいいのですが、ほかには。

三崎委員：先ほど平松委員から出たご意見は、定住人口につながるのかどうかというところがこちらに落とし込まれていないような気がするという意味合いだと受け取ったのですが、そのお答えとして東京都への転出抑制に対しては、県内産業を興すことですか、高齢社会を乗り越える仕組みというのがその解決策として落とし込まれているのだという話だったのですが、それを伺いながら、定住人口にどうつながっていくのかという部分でまだ弱いといいますか、イメージが繋がっていないなという印象を受けております。その後、浦川委員のご指摘にもありましたように、東京の衛星都市として交通インフラを良くして住むなら神奈川というところに割り切るというご意見も本当に一つの手法だなとも感じたのですが、では、定住したいと思わせる魅力をどこに持っていくかというところがふわっとしか書かれていないというのが私は少し心配なところでして、今、菊地委員がおっしゃったように、実は子育てしやすい場所なのですよというところをもっとアピールすることなのか、もう少し具体的に、だったら神奈川に住もうかなというところを、どのポイントでアピールしていくのかということが書かれていないような気がして、そこが不安材料かなと感じております。

望月委員：今回資料を拝見させていただいて、以前と比べ格段にまとまりができてきました。私としては前回、主張させていただいた内容がしっかり盛り込まれているなと思います。ありがとうございました。

それで、少しお話をさせていただくと、人口ビジョンのところですか。各地域の分析というのがあります。これが、12 ページ以降に出ています。これを見る限り、実態はこういう動きになっていることは分かります。分かりますが、なんでこういう人の移動がおこっているかという真因分析、分析に基づく仮説がこの中にあれば、その真因を解決する方法として、総合戦略の向こう5年でどう是正していくかという対策を示していけるのかなと思います。ですから、もう少し人口ビジョンのところは、真因分析、今後どういう行動が起きるのか、多分富、豊かさに合わせて人は動くという仮説を自分は置いているのですが、そういうことを少し分析していただくと、それを是正するストーリーができる感じでした。

総合戦略は以前から「総花的」と私は言っていたのですが、12 ページを見ていただくと、しごとのところは、いろいろご議論はありますが、知事がおっしゃっている未病、ロボット、エネルギー、観光をしっかりと切り出しているという認識を持っています。未病という言葉がまだ定着の途上である、これは県庁の皆さんや我々がもっと努力をして浸透させていく。言いつ放しではなく、我々もその責任があると感じていますので、こういう切り出し方に私は賛成です。その中で仕事に関

しては、少し足りないなと思う部分があります。それはこの仕事の部分で、もう少し例えば、民間の活用とか、こういったキーワードが入ってもいいのではないかなと感じます。さっと読むと、ここでは県が頑張っていくと見えちゃうのですが、ここには民間も含めて協力をしていくというようなことがキーワードとして入ってくるといいかなと。

国家戦略特区の記述はいろいろと私の方でお願いをしたので、記載をしていただいています。ただ、既にある三つ以外にも15ページには民泊という言葉も書いてあります。こういった新たなところをもっと追求していくようにお願いします。例えばうちのお客さんで、農地にレストランをつくりたいという人がいます。ただ、これも規制があってなかなかできない。しかし、他県では特区を活用してやった例もあると聞いています。こういった様々な規制緩和要望をうまく取り込んでいただくということが大切かなと思います。そのためには、もっと相談窓口をわかりやすく明示していただきたいと思います。

17ページでは、「労働生産性の向上」が文章の中に入っています。要は“稼ぐ力”。これは地方創生のキーワードなので、是非主な取組みのところで切り出していただけたいと思います。特に中小企業の事業承継支援をうまく切り出していただけるとよりいいと感じます。

40ページの説明が総合政策課長からございましたけれども、この第4章の(2)「市町村との連携」、ここはできたら、“連携”という対等ということになりますが「県のコーディネート」、つまり、“調整”という言葉が入ると、より県がリーダーシップを取って動いていきますという意思表示ができると思います。

最後です。(3)「PDCAによるマネジメントサイクル」とあります。先ほど座長からもございましたけれども、やはりKPIの設定というのは設定するだけではなく、達成しなければいけない目標になります。ですから、PDCAをしっかりと回してKPIを達成するための手段を考えていく、これがPDCAを回すということになると思うので、ここはしっかりと記載していただくのが完成形としてはいいと思います。

牛山座長：いったんこの辺で少し事務局からお考えをいただいて、その後またご意見を伺っていききたいと思います。いかがでしょう。

二見政策局長：時間の関係で、主立ったところをご回答したいと思いますけど、浦川委員からありました、交通インフラのところですけど、県では、かながわのみちづくり計画を見直す年度に突入しています。その中で、やはり今回のポイントというのは、さがみ縦貫がつながったので、そこへのアクセスですとか、今まで観光という視点であまり道路というのをやってきませんでした。産業とか、そういうことでやってきましたけど、観光客に都合がいいような形の道路をやはりやっていきたいという考え方がありまして、県西地域の活性化なんか、南足柄と箱根をつなぐ道路をとにかく優先しようだとか、そういう考え方を持ち込んでいます。ですから、三浦半島にも道路をとということで、観光と結び付けての考え方を持ち込みたいなという考え方がございます。今までなかった特徴的な考え方がそこに出てくると、知事はやはり鉄道のところで今まで社会増が続いてきた、その神奈川県過去の歴史をもう少し分析しろという宿題が出ています。それはかつて東京に流出していなかった時代があって、それが田園都市線周辺に多くの人口が張り付いた時代

がありました。ああいうものがもう一回復活できないかということを知事から言われまして、我々も鉄道沿線にどうやって張り付けるか、これはPR力の問題かと思えますけど、その辺で交通の関係では取り組んでいきたいと考えています。

それから、若生委員からありました、未病のところですけども、これが未病はどこを治すとか、かなり個別の小さい話ではなくて、もう社会システムを変えるものの用語として未病を使い始めているんですけど、なかなかそういう大きな概念だということが今理解されていない現状があるという認識をしていますので、そこをPRしながらやっていきたい。そして、決して高齢者だけの話ではなくて、子どもの話であり、若い女性の話であり、勤労している人たちの話であり、そして高齢者の話ですよということで、全世代にわたって未病という概念で健康ですとか、そういうものを進めて、最終的には高齢者がちゃんと70歳まで仕事を持って働ける社会にしていく、そこまでを狙っていますので、今はそれがうまく記載できていませんけど、基本目標4の(1)にそれは大きく表示をしていきたい。まだ県の中でやっている事業の検討が追い付いてきていないものですから、この程度の書き方になっていますけど、これを案にしていくときには、もう少し分かりやすく出していきたいと思っています。

それから、秋山委員からありました、3世代近居の話がありまして、前からご意見はいただいているので、県の中で検討はしているんですけど、なかなか受け取る部局がない、まだそういった内部の調整をやっているところなので、きちんとした形で今のこの冊子には出ていませんけど、調整が整い次第、そういった3世代近居のようなものを盛り込めればと思っています。それから、町内会のようなコミュニティー的な部分ですけど、これはどうしても市町村との役割分担の中で市町村がやる部分なので、地方創生も県と市町村と連携でやります。市町村にその辺は随分やっていただきますが、県であまりそのところを強調して書けないというのがありますので、工夫しますが、少しご理解をいただきたいなと思っています。

それから、菊地委員からお話がありました、若者に対してのアプローチをもう少しやるべきだといった部分は、冒頭、石本委員から意見がありました辺りと、今回まだ弱い部分だなという認識ですので、庁内でももう少し調整をして、ここに盛り込めるようにしていきたいなと思います。

それから、三崎委員からありました、定住のイメージのところですけども、ここは一番出していきたいのは、基本目標2の(1)神奈川ライフというくだりがあります。これは抽象的な表現になっていますけど、ここでどういった神奈川の魅力があって、どういう人を呼び込みたいのかというものをもう少し明確に出していきます。今年度、神奈川ライフを具現化して、映像化したものというのを今作成中です。全国移住ナビで放映するということを目指して進めているんですけど、その中でやはり三浦半島地域の付け根辺りですとか、小田原だとか、その辺りで非常に子育てをしやすい、そして東京にも行きやすく、働きやすく子育てがしやすい、この辺をターゲットにして売りにしていきたいと、理念的な面ではそういったものを強調しながら定住人口の増加を図りたい。そして、本当に具体的な定住人口を図る部分の政策というのは、やはり市町村と組んでいます。どの辺に空き家を活用して、何人ぐらいそこに呼び込みたいのかというのを市町村がちゃんと持っていますから、そこと組んでやっていくようなのは当面5年間の現実的なものなのかなと。

50 年間ぐらいを見越せば、神奈川県に産業を興して、神奈川県魅力をアップして、しごともつって、という大きな流れをつくっていかないと、定住人口は増えませんが、当面は市町村のそういった空き家対策とか、そういうところで増やしていこうという考え方です。

望月委員の言われました、人口移動の真因分析は進めてみたいと思います。それから、民間活用のところの強調というのも、これも必要なところだと思いますので、やっていきたい。それから、特区の関係の相談窓口については、今ヘルスケア・ニューフロンティアに置いてありますけど、国家戦略特区を所管するのがヘルスケア・ニューフロンティアということなので、農家レストランから何から、今まで窓口はヘルスケア・ニューフロンティアになっておりまして、その辺はわかりにくいかもしれないですけど、ヘルスケア・ニューフロンティアだけの窓口だけではないということで、もう少しその辺はアピールをしなければいけないかなと思っています。

関委員：前回の 10 月の会議には出られませんでしたので、今頃議論するのは遅いかもしれないのですが、克服すべき二つの課題について、幾つか意見があります。人口減少に歯止めをかけるというものが挙がっています。この点、先ほど白石委員からご意見がありましたし、それ以前にも少し言われたかと思いますが、人口ビジョンの素案に示される 2060 年になっても人口減少に歯止めはかからないように、人口が減り続けるという状況が良くなるのは非常に難しいのが現実ではないかと思っています。もちろん歯止めをかけるために、合計特殊出生率を上げようとする施策は大賛成です。ただ、このフレーズがこのままだとかかなり現実っぽくなく、心に響かないのではないかと危惧しています。例えば、2050 年に 2.07 ということになる、その子どもが大人になって、シニアが亡くなって行って、初めてバランスがとれます。実際にもし 2.07 を達成できたとしても、この人口減少が止まって安定するのは 70 年、80 年後の話です。しかし、歯止めをかけるという、もっと早く人口が安定するというイメージになりかねません。そこで、例えば「人口減少を直視する」とか、「人口減少を止めよう」とするなど、この点を課題として取り上げて取り組んでいくと強く訴えるタイトルの方がいいのではないかと思います。

次に、この克服すべき課題と 3 つのビジョンの関係なのですが、先ほど石本委員の若年者意見交換会の話でも、将来の安全とか、安心が必要だとか、ロールモデルがあったらいいとか、そういった将来的に安定している社会像がいいという声がありました。このように、ある程度分かりやすい目標をビジョンとしては掲げる必要があるのではないかと思います。この点、神奈川県としては「行ってみたい、住んでみたい、人を引きつける魅力あふれる神奈川」とか、「いのちが輝き、誰もが元気で長生きできる神奈川」というスローガンが掲げられているのですが、今回のまち・ひと・しごと創生総合戦略の中でのビジョンも、もう少し明確だといえます。というのは、ここで挙げてあるビジョンは、中身は三つともとてもいいと思うのですが、全部結構具体的です。合計特殊出生率を上げるとか、「マグネット力」を上げるとか。そうではなく、より抽象的な、安心した社会をつくるといった課題があり、そういった大きな目標について、具体的にそれを達成するためのビジョンがあるという方が、全体としては分かりやすいのではないかと思います。もしそういうふうに 3 段階にしないのであれば、逆に克服すべき二つの課題を、「克服

すべき課題と将来像」といった形にしてはどうでしょうか。例えばこちらの1点目の人口減少に歯止めをかける方策については、人口減少を直視といった形にします。そして、二つ目は、将来、そういった中で超高齢社会を乗り越えるという話なので、私たちは超高齢社会を乗り越えて、安心した社会を構築しますといった、少し前向きなメッセージを出すなど、そういう形で作ると全体像が見やすいのではないかと思います。

あともう1点は、施策の中の細かい点です。我々が第3回分科会で検討したときに、基本目標4の(2)持続可能な魅力あるまちづくりの交通ネットワークのところ、超高齢社会においてはバスが重要だという話をしたかと思います。シニアがあちこち行きやすくするためにはバスが必要な中、バスがどんどん便が減り、なくなってきているところもあります。この充実というのは一つ課題になると思いました。

室田委員：何点かあるのですけれども、一つが未病ということなのですけれども、私も前回、欠席をしております、うまく概念を理解しているか分からないのですけれども、この未病ということに対して三つの特区であるとか、ME-BYOタウンの形成というようなことが書かれていまして、どちらかという、拠点空間みたいなものを形成していくことをイメージしていらっしゃるのかなという印象を受けたのですけれども、実際に、例えば健康寿命という言葉がありましたけれども、健康寿命を伸ばそうと考えたときに、そういう拠点的な空間づくりということと併せて、日常的な空間づくりということが大変重要かなと思っております、私の大学は横浜市の都筑区にあるのですけれども、都筑区というのは男性の平均寿命が2位、3位というような町です。見ている限り、私も何で長いのか、分析していないと思うのですけれども、見ている限りニュータウンですので、長い緑道がありまして、そこを皆さんでよく歩いているというような様子をよく見かけます。つまり歩いたり、あるいは話したりということが非常に日常的に行われている空間というのがとても重要かなと思っております、コミュニティーカフェというのを結構地域の中に何か所もつくっているのですけれども、そうすると、そこは話す場所であり、歩いていくための緑道、全部で15キロあるのですけれども、そこで話したり、歩いたりというようなことで、男性は結構すたすた1人で歩いていらっしゃる方をよく見掛けるのですけれども、そういう空間づくりというのはやはり私は非常に重要かなと思っております、そういったことを少しでも促進していく。以前調べたときに、高齢者が歩くという条件だとかやはりバリアフリーも重要です、歩く途中で休むベンチがあるとか、先ほどのコミュニティーカフェみたいなものであるとか、あるいはトイレがあるということが非常に重要。そういうことを幾つか条件としてあるかと思しますので、そういった空間づくりを県が率先して市町村にやってもらい何なり、そういった形の一つはとれないかなということが1点目です。

2点目ですけれども、神奈川県は郊外地域と言われるようなベッドタウン的なまちがたくさんあると思います。ベッドタウンは基本的には専業主婦がいるということを想定したまちづくりだと思っております。ということは、専業主婦がいなくなると、あるいは専業主婦だとやっていけないというような状況になると、郊外地域からは人がいなくなるというのは、私は当然かなと思っております、ということは、その場所に、先ほどいろいろ言われたような新規ビジネスとか、そういうことを興していくこともその場所がなくなら

ないためには必要かもしれませんし、あともう一つ、これも今地域で実験的にやっているのですけれども、先ほどサテライトオフィスという話がございましたけれども、今、皆さんで使うシェアオフィスということをやってみよう地域でやっています、シェアオフィスと併せて子どもが遊べる空間というのを一緒に付けておまして、なかなかまだニーズがないところなのですけれども、一方では企業側にも働きかけていかないと非常に難しいかなと思っているところでして、そういうシェアオフィスみたいなものを郊外地域などにはできるだけ空き家活用などをされてできないのかということが一つあります。それは、働く側と企業側の両方でそれを、そして今ある様々な情報システムをうまく活用して、そういった空間をつくっていくということが必要ではないかということが二つ目としてあります。

もう一つですけれども、先ほど神奈川は自然と都市が両方あって非常に素晴らしい地域であるとおっしゃっていたかと思いますが、私もそのとおりだと思うのですけれども、この中に観光資源を生かすとか、地域資源を生かすという言葉はあるのですけれども、都市だけではなくて、その自然環境をどうやって保全していくかということがやはり併せて一緒にないと、それが自然環境を保全するのは今市民の森とか、いろいろ形で一生懸命保全しているところではありますけれども、圧倒的に人が足りないというようなことになっているかと思いますが、そういった方々がうまくもっと増えるなり何なり、それが地域資源に結び付いて、さらに観光資源にも結び付けて、そしてそれが一つの産業としても成り立っていくというような一つのストーリーを付けていただきたいのですけれども、そういったことを考えた場合、このまちづくりの中にそういった自然環境を保全していくとか、それを前の方に書いてある観光資源に結び付けていただくかというような文言が見当たらないのですが、そういったこともどこかで明記をしていただけないかなと思います。

それとあともう1点、エネルギーという言葉がありましたけれども、エネルギーを育てる。この一つの例としてなののですけれども、いろいろな形で新規ビジネス的なものをいろいろな人に興していくというのが大変重要で、特にエネルギーはこれから全国で本当に期待できるかと思うのですけれども、こういった場合に、私は以前イギリスですずっとエネルギーのことを調べていたのですけれども、例えばその場合は、コミュニティーエネルギーマネジャーという人たちをみんなで育てようということをやっている、それは国の政策としてやっていたと思うのですけれども、つまりそういうところをたくさんあちこちにつくって、そして、そのコミュニティーエネルギーマネジャーという人たちが、再生可能エネルギーですけれども、この地域だとどういったエネルギーの組合せをすると最も効果的かというようなことを、いろいろ試算をして、そして提案をして、地域の中でそれをみんなでお金を集めてつくっていくみたいなシステムなのですね。ですので、このエネルギーというところを拝見しますと、いろいろなエネルギーのビジネスの興し方というのがあるのでしょうけれども、地産地消と書いてありますが、地産地消のエネルギーの一つのシステムの在り方として、イギリスの例はそういった地域の中でのコミュニティービジネスとしてやろうということだと思うのですけれども、そういう別のパターンみたいなものをこういったところに組み込めないかなと思いました。そういったことを考えた場合に、これは全体として縦割りというのではないのですけれども、政策間の様々な連携が見えてこないような形の書き方になっていて、もう少しコミュニティーの活性化という部分と、地域のいる

いろな新規ビジネスを興す人たちを育成するということと、例えば今のエネルギー産業を興すということとをうまく結び付けて、最後にこういうものは全体として結び付けてやっていくと、もっと効果的であって、そしてもっと政策として仕組みまではっきり見えるというような、本当はそこが次の段階なのかもしれませんが、そういうものがあると私はいいなと思いました。その辺、後ろの方の推進体制の中で県内での横の連携とか、そういうことも是非記述をしていただきたいと思います。

牛山座長：どうもありがとうございます。お時間もだいぶ迫っています。じゃあ、最後にお一人、タバ委員、お願いします。

タバ委員：(公財) かながわ国際交流財団のタバです。資料2の21ページをご覧ください。ヘルスケア・ニューフロンティアのところなのですが、超高齢社会が到来しているというのと、国内外に共通したものであり、この課題の克服が求められていますとあって、そのとおりだと思うのですが、実際に神奈川モデルとして広く国内外に発信していきますとありますが、日本にはたくさん外国人が研究者とかも夫婦で来ていて、片方は医者とか、片方は看護師さんとか、いろいろな人がいるのですが、今のところはそういう方が医療関係に従事することができないということで、単身赴任は困るから1年で帰ってしまうという人が多いのですね。ですから、せっかく特区ということなので、これはこの政策だけではなく、厚生とか、いろいろなものに関係すると思うのですが、本当に神奈川モデルとして広く世界に発信するのだったら、そういった人たちが実際にそういう現場で働けるような仕組みがあるとできるかなと思いますので、この主な取組みはこれからということなので、どのくらい反映できるか分かりませんが、参考していただければと思います。

それから、19ページですが、KPIのところでも四つほどボツがあるのですが、一番上に職業技術校の修了3か月後の就職率がもう既に92.5%あるので、本当は100%の方が望ましいから、まあ95%というのはいいとは思いますが、ほかの主な取組みがいろいろ七つほどある中で、ここに出ていないところがあるのですね。だから、既に92.5%あるのは、放っておいてもとは言わないけれども、ほかにも例えば最後の、この安心して働ける労働環境の整備というのは、やはり育児休暇の取得率をどのくらいにするとか、多分はっきりとした目標がないと、なかなか今までやってこなかったところで、もし可能であればそういうところを何かKPIとして出していただけたらいいかなと思います。

牛山座長：ありがとうございました。まだまだご意見はあるのかなと思いますけれども、お時間もありますので、事務局からコメントをいただきたいと思います。

二見政策局長：それでは、主なものにお返しをしておこうと思いますが、関委員からありました、目標、目指すべき姿が明確でないといったところなのですが、これに関しては人口ビジョンに書いてありますように、「行ってみたい、住んでみたい、神奈川」ですとか、健康長寿といった、これが実は目指す姿です。少し目立たないような書き方になっていますけど、もう少し工夫をしていきたいと思います。人口ビジョンですが、明確な数

値目標について、50年を展望したものですので、こちらに数値的なものを明確に出していくというのはやや難しいのかなと。当面、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、当面5年間のものですので、数値的なものを示しながら、というのができるのですが、その辺の兼ね合いがございまして、簡単に申し上げられない部分がございますので、後ほど関委員とその辺を個別にお話をさせていただきたいなと思います。

それから、室田委員からありました、未病です。まち・ひと・しごと創生総合戦略の書き方は、確かにまちづくりのところに掲げたものですから、今表示されている事業は拠点づくりとか、そういった意味が強くなっているのですが、実際はソフト的なものを交えての社会づくりが中心ですので、ここは先ほど申しましたように、今、県庁の中では一番議論をしているところです。毎月毎月見える形にだいが近づいてきていますので、もう少しここは記載の仕方を工夫させていただきたいと思っています。その中で、お話にありました、コミュニケーションをとったり、皆さんがお話する空間ですとか、それを今、未病の中に社会参加が大事だという考え方を採っていますので、皆さんがコミュニケーションをとるようなそういう空間を整備していただくか、そういう考え方が中には含まれていません。その辺をうまく表現していきたいと、室田委員のおっしゃることには対応していきたいということです。

それから、自然環境保全みたいなものが出ていないといったところなのですが、確かにそのとおりなので、もう少し強調しようかなと思っていますが、どこの言葉に込められているかという、地域らしさを際立たせていって、その地域の創生をしようという考え方の中の「らしさ」というのは、自然があるということが「らしさ」なんです。ですから、それを壊してしまって、無理やり人を呼び込む地域づくりをしようという考え方は実はありません。自然があるということをきちんと保全した上で、それを売りにして、地方創生をやっていこうというのが基本的にありますので、ほかにもその辺はご理解いただけるように記載の仕方は少し工夫してみたいと思います。

それから、エネルギーの関係で地産地消のところにありました、横との連携ということがありまして、これはほかの政策にも言えることなのですが、どうしてもここに表記し切れない部分が相当いっぱいあって、目玉になる事業があります。それについては、発表していく中で、別に1枚その事業をどういう進め方をするのかとか、こうやって横に連携していますよとか、やはり表記していく必要があると思うのですが、目玉の事業については別のペーパーみたいなものを出して、事業承継の話なんかもそうなのです。ここで表現し切れないのは別のものでカバーしていきたいなと思っています。

タパ委員からありました、特区を活用しての介護等の外国人の働く環境の部分ですが、ここは神奈川の地方創生の一つのポイントだと考えています。やはり県内で人口を取り合うだけでなく、外国人の活力を活用させていただいて、県の活力を維持していこうというのは知事と我々が持っている考えですので、具体のところはまだ伴ってきていませんけど、その辺は具体化を進めて、具体化に伴ってこちらの記述も充実させていきたいと考えています。

牛山座長：どうもありがとうございました。たくさんのご意見をいただきまして、だいがまとめていただいているかなと思いますけれども、この人口ビジョン、まち・ひ

と・しごと創生総合戦略について、特に未病のところの皆さんへの分かりやすさといったことであるとか、それから、今コメントいただきましたが、やはり産業振興みたいなところと神奈川らしさ、自然環境との調和の問題でありますとか、あるいは具体的な政策、これはKPIを掲げて進めていくわけですが、ここまですべて書けると、この先また書いていくところとそれぞれがあるかと思しますので、その辺は少し工夫していただきながら、より良いまち・ひと・しごと創生総合戦略、あるいは人口ビジョンにさせていただくということで、また事務局ともご相談をさせていただきたいと思っております。その一方で、今回KPIを具体的に掲げてやっていくということで、皆様からいただいたご意見を具体化することの難しさみたいなのところもございますし、あとやはり市町村の役割ということと、KPIをどう調整していくか、いろいろな制約もございますので、その辺のところも勘案して事務局で取りまとめ、また皆様のご意見を交換させていただければと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございますが、県から何かございますか。

3 閉会

二見政策局長：改めまして、本日は熱心なご議論をいただきまして、本当にありがとうございました。それぞれ委員からいただいたご意見については、私の方で簡単にお返ししておきましたが、いただいた意見はきちんと受け止めて、きょう提出した人口ビジョンとまち・ひと・しごと創生総合戦略をできるだけ書き直した形で12月の県議会に報告をさせていただきたいと考えております。次回、この地方創生推進会議は1月27日を予定しておりまして、そのときには成案の形のものを見ていただきたいと、このように大きなスケジュールでは考えているところです。いずれにしろ、いただいた意見はきちんとできる限り反映をさせていく予定ですが、ご理解いただきたいのは、こちらの議論が先行して、いいなと私も思っているものを県でどうやって具体化していくのだろう、その検討はなかなか付いてこれないものが幾つかございます。観測でこういうものを書いていくというものもありますけど、私としましては、ちゃんと県の組織が受け止めて、それを実行できるような形にしたもので出していけないと、県民に対してのお約束になりますので、少し歯切れが悪いようなところもありますけど、それは言われてすぐにできるものばかりじゃない、難しいものも取り組んでいるというところでご理解いただければと思ひます。最大限の努力をしますので、今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

牛山座長：ありがとうございました。何かほかに委員の皆様からございますか。よろしゅうございますか。

それでは、今お話がございましたが、次回の地方創生推進会議につきましては、1月27日水曜日ということですので、ご多忙とは思ひますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

以上をもちまして、第5回神奈川県地方創生推進会議を終了させていただきたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

会議資料

資料1 神奈川県人口ビジョン（素案）

資料2 神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）

参考資料 地方創生に関する若年者意見交換会における主な意見